

もの言う牧師のエッセー 第108話

「トヨタ復活」

東京モーターショー。ホンダの伊東孝紳社長が見守る中、ホンダ自慢の大型バイク「ゴールドウィング F6C」にまたがる破顔一笑の御仁は、トヨタの豊田章男社長である。少年のように笑いながら、他社のブースにてライバル社長との珍しいツーショットに応じる彼を見て、苦難の道を歩きとおした男の自信と、トヨタの復活を誰もが感じたに違いない。

拡大路線を走ってきたトヨタがリーマンショックの直撃を受け、2009年3月期に58年ぶり赤字となった直後に、豊田氏は第11代社長に就任した。そして彼はひたすら修羅場の道を行くことになる。2009年から10年にかけて北米を中心に起こった大規模リコールと、米国運輸省による“トヨタ叩き”、米ABCによる捏造記事。2010年6月の、中国広州工場でのストライキ、さらに2011年の震災とタイの大洪水、そして超円高…。しかし「平時では学べない多くのことを学んだ時期だった」と彼が言うとおりの、様々な企業努力を行った結果、2012年には世界販売台数首位の座を奪還、2013年も絶好調である。

「我々は勘違いをしていた。労働力の安い地域で生産し、台数を拡大すれば良いのではない。重要なのは『持続的に成長』することである」。という彼は、1ドル70円台でも利益が出るように改革を開始した。

聖書には、命を狙われていたキリストと、彼の敵とのやり取りが記されている。

「あるパリサイ人たちが、イエスに近寄って来て言った、「ここから出て行きなさい。ヘロデ
があなたを殺そうとしています」。そこで彼らに言われた、「あのきつねの所へ行ってこう
言え、『見よ、私は今日も明日も悪霊を追い出し、また、病気をいやし、そして三日目にわざ
を終えるであろう。しかし、今日も明日も、またその次の日も、私は進んで行かねばなら
ない。』」ルカの福音書 13章 31-33 節：口語訳。

実はキリストは良く働いた。身の危険も顧みず休みなく人々を癒し、宣教した。彼には落ち込んでいる暇などなかった。常に立ち上がり進まれた。人の道は修羅場の道なのかも知れない。その結果、病気になる人、酒に溺れる人、人にあたる人などが大勢いる。それは仕方のないことだ。しかしいつまでもそのままではいけない。立ち上がるのである。立ち上がったら今度は安易な道を選び、持続的に進んで行くのである。イエスの聖霊の力によってそれは可能だ。 2013-11-27

